

令和3年度 日向市立財光寺南小学校 学校評価

評価段階 A とてもよい=4 B だいたいよい=3 C もう少しである=2 D あまりよくない=1

	重点目標	自己評価等 ※A～Dの数値は%						分析及び改善策等	学校運営協議会委員の御意見と評価	
		対象	A%	B	C	D	評価			
確かな学び	1 分かりやすい授業に向けた手立ての工夫	児童	53.3	38.1	6.3	2.3	3.4	3.3 ○ AB評価が概ね90%以上となっている。しかしCD評価の児童が8.2%（前年7.3%）であることから指導体制の工夫やICTの充実など指導の在り方を工夫し、個々の学びを充実する必要がある。 ☆ 各学期ごとに学習の定着をしっかりと見届け、学習状況について家庭と連携を図る。 ☆ 個別最適化の学びを推進するために、タブレットを活用した授業の在り方について、今後研究と実践を深めていく。	3.5 ・創意工夫の努力の表れと思われる。 ・個別指導の強化（タブレット取入れ工夫）を願う。 ・今回の評価結果を、教員、保護者、児童、地域と全員で情報の共有を図りながら共通認識のもと活動を進めることが重要だと考えます。評価結果を見ると児童一人一人が興味をもって取り組める学習内容になっていると感じました。真実なまなざしで授業に取り組ませることも重要ですが笑顔があふれる雰囲気作りにも努めてください。 ・コロナの状況でいつ休校になるかわからない中で日々大変だったと思います。学年の状況に応じて今後も指導してほしいです。タブレット授業の在り方も今からの課題だと思しますので、使用の目的など子どもたちへの指導もちゃんとしてほしいです。 ・一人一人が集中して授業を受けている姿勢を感じました。コロナ禍の先生達の指導の工夫がみられました。	
	2 望ましい学習習慣の定着に向けた手立ての工夫	児童	59.9	30.1	8.8	1.2	3.5			
	3 家庭学習の習慣化に向けた手立ての工夫	児童	72.4	17.0	7.2	3.4	3.6			
	4 読書習慣の定着に向けた手立ての工夫	児童	54.6	27.9	11.9	5.7	3.3			
豊かな心	1 楽しい学校生活	児童	65.9	22.2	7.7	4.3	3.5	3.3 ○ 本年度追加した項目である。コロナ禍の様々な活動が制限された中ではあるが児童・保護者・職員ともに9割近くがAB評価である。CD評価の要素を分析し、さらに楽しい学校づくりを行う必要がある。 ☆ これまでの固定概念から脱却し、活動の精選・創造を行うとともに、学力向上を軸とした教育課程を編成していく。	3.5 ・楽しい学校生活が送れている評価は望ましい結果です。 ・豊かな心づくりは家庭＋地域に委ねる部分が多く、個々の性格も異なることから難しい課題だと思います。特にここ2年間はコロナ禍の影響により生活習慣、学校生活が大きく変化することで余裕がなくなり心の乱れが生じているのではないかと心配しています。しっかりとコミュニケーションをとり、ケアに努めてください。今こそ、地域、保護者、学校が三位一体となった活動が必要だと感じています。地域の一人として協力していきたいと思います。マスク、手洗い、消毒が基本となり、会話が少なくなり、学力だけではない人間形成で大切な事がなかなかできなかったような気がする。 ・コロナ禍で活動ができない中、今は個々が創意工夫し授業や学校生活を楽しみ送れたら、と思います。お別れ遠足で縄跳びは接触を避け、体力作りはよかったなと思いました。	
	2 元気な挨拶や会釈の定着のための手立ての工夫	児童	62.3	30.2	6.9	0.6	3.5			
	3 温かい人間関係づくりに向けた手立ての工夫	児童	68.5	25.8	4.4	1.3	3.6			
	4 規範意識や思いやりの心、基本的な生活習慣（スリッパ並べ、廊下歩行等）の定着	児童	64.7	29.6	3.8	1.9	3.6			
	1 楽しい学校生活	保護者	50.7	44.4	4.7	0.2	3.5			
	2 元気な挨拶や会釈の定着のための手立ての工夫	保護者	38.5	51.0	10.3	0.3	3.3			
	3 温かい人間関係づくりに向けた手立ての工夫	保護者	31.4	57.2	10.9	0.6	3.2			
	4 規範意識や思いやりの心、基本的な生活習慣（スリッパ並べ、廊下歩行等）の定着	保護者	28.7	63.9	7.5	0.0	3.2			
	1 楽しい学校生活	職員	9.0	87.0	4.0	0.0	3.1			
	2 元気な挨拶や会釈の定着のための手立ての工夫	職員	33.0	58.0	9.0	0.0	3.2			
	3 温かい人間関係づくりに向けた手立ての工夫	職員	33.0	67.0	0.0	0.0	3.3			
	4 規範意識や思いやりの心、基本的な生活習慣（スリッパ並べ、廊下歩行等）の定着	職員	22.0	74.0	4.0	0.0	3.2			

5	特別支援教育の充実	児童						3.3	○ 保護者評価は昨年と変わらないが、職員のC評価が20%→0%となった。特別支援教育コーディネータを中心に、組織的な対応にできたものと思われる。特別支援教育の視点を生かした学習指導についても研修の機会を設けることができた。 ☆ 参観日等、学校行事の機会を活用するとともに、文書による啓発など、特別支援教育の理解に努めていく。必要な支援を行うとともに保護者との教育相談の充実に努める。	・コロナでなかなか大変だったと思います。保護者との連携も取れていると思います。先生やコーディネータの方の負担が増えないようにしてもらいたいです。	3.5
		保護者	37.6	55.6	6.7	0.0	3.3				
		職員	29.0	71.0	0.0	0.0	3.3				

健康・安全	1	運動や戸外での運動遊びの奨励	児童	73.6	19.7	5.0	1.7	3.7	3.4	○ 児童がはは昨年よりAB評価が微増。職員もC評価が17%減った。昨年に比べ、コロナ禍における活動の工夫ができたのではないかな。 ☆ 本校の「体力向上プラン」で課題として挙げている「敏捷性」「瞬発力」の向上に向け、コロナ禍における運動の在り方を工夫し、実践していく。	・コロナ対策をしながらとても大変だと思います。休みがなく、外で遊ぶことに制限があり大変なこともありますが続けてほしいです。 ・コロナ禍、スマホやゲームに、体を動かすことが少ないのでは。家庭での取組と児童が工夫して取り組んでいたのはよかったです。	3.5
			保護者	33.4	58.0	8.3	0.2	3.2				
			職員	33.0	58.0	9.0	0.0	3.2				
	2	早寝・早起き・朝ご飯の定着に向けた手立ての工夫	児童	55.8	27.5	10.4	6.4	3.3	3.2	○ 昨年に比べ、児童、教師のC評価が増えている。メディアとの付き合い方について、財光寺中校区としての取組を行っているが、改善されていない児童も多いため、工夫が求められる。 ☆ コロナ禍で取り組みなかった学校保健委員会の活動や学級懇談の充実を基本とし、通信などによる、啓発活動だけでなく、確かな実践につながる指導を行っていく。	・保護者向けの情報活動、共有化に努力をしてほしい。 ・ノーメディア実施も引き続き取り組んでほしい。 ・自宅過ごす時間が長くなり、生活リズムが乱れていると思う。	2.5
			保護者	35.4	57.3	7.1	0.2	3.3				
			職員	25.0	58.0	17.0	0.0	3.1				
	3	給食指導や弁当の日の取組による望ましい食習慣の育成	児童	66.6	24.7	7.3	1.4	3.6	3.4	○ ほぼ昨年同様の結果であるが職員のC評価が5%増えた。授業、学級での指導、給食指導を通して、食に対する意識を高めることができた。しかし、偏食や少食などの個人差に応じた食習慣の育成を引き続き継続する必要がある。 ☆ 偏食及び小食、アレルギー対応に留意しながら、発達段階に応じた児童の食への関心を高め望ましい食習慣の育成を図る。	・学校任せにならないよう、食習慣の育成についても家庭と連携を密に取り組んでほしいです。 ・健康については正しい食習慣が基本となることから、保護者への協力の呼びかけを粘り強く行ってほしい。 ・弁当の日に子どもと作るのもよいが、平日は少し大変です。食に対する興味をもつことは弁当の日に会話をすることが大切だと感じました。日常に食習慣を家庭でも定着させることが大切だと思います。 ・幼児期の離乳食が大事で好き嫌い、生産者、料理を作る人への感謝と食品ロスをなくすことではないでしょうか。	3.0
			保護者	43.0	50.8	6.0	0.2	3.4				
			職員	33.0	54.0	13.0	0.0	3.2				
	4	避難訓練、交通安全教室等、安全教育の充実	児童	72.0	22.7	3.0	2.3	3.6	3.5	○ 昨年に比べ、児童・保護者の評価にあまり変化は見られないが、職員のC評価が22%→0%となった。ただ、各学級での指導は、十分に実施したが、地域での交通安全の意識の低さも指摘されており、指導の充実を図る必要がある。 ☆ 引き渡しを想定した避難訓練を望む声が保護者より数名挙がっていた。コロナ禍ではあるが、訓練の方法を見直し、実際の場で生かせる避難の在り方を確立したい。 ☆ 学校だより、ホームページ、実地指導等により地域との協働への働きかけに努めていく。	・日頃の訓練が大切。地域住民を巻き込む訓練計画なども必要だと思います。 ・安全への取組については、命を守ることにつながりますのでより一層の目配り配りをお願いします。 ・災害が多いのでしっかりとしてもらいたいです。交通安全はヒヤッとするところもあるのでしっかり指導しなくてはならないと思う。 ・PTA、保護者に通学路が安心・安全に登下校できるか見直し、登下校時の児童の見守りを保護者に関心をもってもらえたらいいと思います。	3.5
			保護者	49.7	43.0	7.3	0.0	3.4				
			職員	38.0	62.0	0.0	0.0	3.4				
連携等	1	体験・ふれあい活動の推進によるキャリア教育の充実	児童	61.7	30.3	5.5	2.5	3.5	3.2	○ 昨年に比べ、児童・保護者の評価にあまり変化は見られないが、職員のC評価が30%となった。コロナ禍の中、工夫して活動に取り組んだが体験・ふれあい→発信までの学びの深まりまで至らなかったという点からこのような結果になったと考えられる。 ☆ 人材バンクの啓発を行うとともに、活用場面を指導計画の中に位置付ける必要がある。 ☆ リモート授業の実施等、感染対策を考慮しながらキャリア教育の充実を図る。	・キャリア発掘、ふれあい活動のすすめ。 ・コロナ禍の中で一番できなくなったところだと思います。一番大切な時期に体験をしてあげられないのはとても残念です。	2.5
			保護者	36.0	53.2	10.4	0.4	3.2				
			職員	9.0	61.0	30.0	0.0	2.8				
	2	学校経営や教育活動等についての情報発信	児童	/	/	/	/	/	3.1	○ 昨年に比べ、保護者・職員ともにC評価が少なくなり、その分B評価が増えた。情報発信の方法について様々な提案も見受けられ、工夫・改善の余地は十分にある。 ☆ 学校だより、ホームページによる発信だけでなく、各種アンケートの回答フォームの利用等、効率的な手段も講じていく。	・情報発信を進め、地域住民を学校教育に巻き込む環境づくりに努力して欲しい。 ・学校だより、ホームページ、アンケート等の発信はありました。 ・コロナ禍、接触や密を避け、授業をするのは大変で、職員の皆さんは創意工夫されていると思います。	3.0
			保護者	37.3	51.1	10.3	1.3	3.2				
			職員	13.0	65.0	22.0	0.0	2.9				
	3	参観日・学校行事の計画的実施と内容の充実	児童	/	/	/	/	/	/	/	/	/
小中一貫教育	4	グランドデザインの理解	保護者	31.2	55.6	10.5	2.7	3.2	3.0	○ 保護者評価は昨年とほぼ変わらないが、職員の2割が昨年度より低評価となった。小中一貫教育に関して、小中連携の活動も十分に出来なかったこともあり、保護者だけでなく職員間でも認識と実践が不十分であったことがうかがえる。 ☆ PTA総会、参観日、学校だより、ホームページ、通信等で積極的な情報発信に努める。	・なかなか思うように活動できなかったと思う。PTA活動もできず、心苦しい思いです。	3.0
			保護者	29.1	55.9	13.9	1.1	3.1				
			職員	4.0	78.0	18.0	0.0	2.9				